

モンゴル国ゴビ砂漠の自然と遊牧民

三重県立四日市工業高等学校 萩 真生

ほとんど資料が見つからないまま、ゴビ砂漠の中央部を東西に走るゴビアルタイ山脈の最高峰イフボクド峰（3957m）の登頂とその周辺地域の自然調査をするために、2003年夏に現地（バヤンホンゴル県その他）を訪れた。過去2回のモンゴル訪問は西部のカザフ民族のバヤンウルギー県が中心で、そこでは高地ツンドラに近い自然環境での遊牧民の生活が展開されていたが、今回ゴビ砂漠を旅してみると、乾燥地域の遊牧民のより厳しい生活を垣間見ることができた。

首都ウランバートルから東南に向かって

中央県からウブスハンガイ県に向かう。初めて見る小麦農場は8月下旬となると刈入れが終わっていた。幹線道路はほぼ2車線で舗装されていたが、先に進むに連



大規模な小麦農場

があったり、橋が建設中であったり、道路そのものが舗装中であったりした。そのたびに道路わきを凄まじい土ぼこりを巻き上げて進んだ。県庁所在地のアルバイヘル市のザハ（バザール）にて休憩する。バザールでは、遊牧民の日常品に混じって、中国製と韓国製の食料品や衣類が多い。

ゴビ砂漠の自然と遊牧民

ゴビ砂漠およびその周辺地域においても、人々は全員「遊牧民」である、牛糞を干す家族がいた。それはゲル内の炊事兼暖房用の燃料になる。半砂

漠地域（年間降水量100～300mm）では、少なからず河川も緑の草原もあるのだが、河川には牛や馬も集まって



牛糞（燃料）干しの作業

きて、糞尿で汚れているので、井戸を探す。案内されると、どこの集落でも地下5mから10mくらいから自分がバケツで汲むようになっている（もちろん無料）。だいたい水汲みは子どもの仕事であり、夕方になるとあちこちから青少年たちがそのために集まってくる。

家畜を愛する遊牧民

夕方ゲルの中で、幼い子どもを抱えながらつくってくれた、スーティツァイ（ミルクティー）をご馳走になった。夏の馬の世話は少年の仕事である。イフボクド峰（3957m）登頂の時、ベースキャンプまで山道の案内をしてくれた遊牧民のゲルではウルム（馬乳で作ったクリームチーズ）をご馳走になった。夏の間の彼らの栄養源は、おもにこれらの乳製品である。写真のゲルはホルト夫妻のものである。昨年冬には寒さのため馬が40頭死んだと言うホルト氏の顔は曇っていた。彼は羊と山羊220頭、牛16頭、馬10頭を、家族7人で飼っている。彼らは、家畜を愛し、それを殖やすために最大の努力をする。むしろ家畜を尊敬しているというほうがよい。肉を食べるのは、食料の不足する冬やお祭りのときだけである。彼らは、



半砂漠地域でのゲル



ウルク作り（客人のもてなし）



馬の飼育は少年が担当

家族愛と家畜への愛をととてもたいせつにする。また、モンゴル人の男たちはタルバガン（リス科で穴にすむ動物）の肉を好み、その狩猟をする。夏の間だけの一種の遊びのようだ。そのためタルバガンは減少して、よほどの高地へ行かないとゲットできないらしい。ただし西部のバヤンウルギー県に居住するカザフ民族はイスラム教徒なので、タルバガンを食べる食習慣はない。1996年の夏、そこでは無数のタルバガンが自由に草原を走り回っていた。



獲物タルバガンを自慢！

ゴビアルタイ山脈とイフボクド峰

高校地理教師をしながら、ついでに山岳部の顧問をしている。いや、山岳部の顧問と自分の登山（旅行も含む）をしながら、ついでに高校地理教師をしている、といったほうが正確か。今回、日本アルタイクラブ（愛知県春日井市）から、ゴビアルタイの調査隊のリーダーという役をいただいた。ホームステイ（ウランバートル市）とゲルでの宿泊と持参したテントでの幕営による旅が大部分である。イフボクド峰は、帝国書院の地図帳にも載っていない全く無



イフボクド峰（中央右奥）

名の山である。その南面の登山ルートの調査が一応私に課せられていた。どうしても頂上には立ちたかった。氷食谷（カール）の底を歩き続けて、午後9時に真っ赤に燃えた太陽がまさにジュンガル盆地の方面に落ちるとき、頂上にたどりついた。その瞬間、美しいと思った。

自分の足で歩いてみよう！

地球には、様々な自然環境に異なる人間生活が営まれ、その人々の日常生活や生き方がどのようなかを生徒たちに論じることこそ、自分の使命であると思っている。モンゴルでの体験を生徒に伝えようと思い、訪問は3回目となった。「乾燥気候」「人口希薄国」「遊牧民の国」「内陸国」「かつての社会主義国」など、自然・産業・文化が日本とはまったく異次元であり、この国は生徒たちの関心も結構ひく。そのような中で、大手ツアーの「乗馬体験ツアー」などの企画によって、日本人観光客は確実に増えている。イルクーツク行きの国際列車の屋根に乗ってモンゴルから脱出しようとする若者を目撃した。自由化モンゴルの都市生活は「混沌」「混乱」の状態なのであろう。この国の社会はどのように変化していくのであろうか。